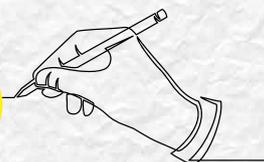


京都で輝く " 新・文化庁 "

文化庁地域文化創生本部だより



Vol. 7



文化庁広報誌「ぶんかる」
キャラクター ふんちゃん

伝統文化や生活文化等の継承・発展と子供たちの豊かな人間性を育むことを目的に実施している「伝統文化親子教室事業」。子供たちが保護者と一緒に伝統文化等を体験できる場を提供している団体や地方自治体の取組に対して文化庁が支援するこの事業を地域文化創生本部が担当しています。



低学年から毛筆とふれあうことで、書道に親しみをもってもらう

継続的に体験できる 機会を提供 「教室実施工型」

子供向けの伝統文化等の教室を継続的に開校している団体が実施するイベントや、そこで子供たちが修得した技芸の成果を披露する発表会などが対象となるのが「教室実施工型」。昨年度の採択事業のひとつ、『京都伝統文化親子書道』（事務局:Calligraphy no.10 知ふみ書道）が開催した「年賀状を書いてみよう」は、低学年の子供たちでも集中力が途切れないよう、毛筆で干支の絵を描かせるなど、まずは毛筆に親しんでもらうことに注力し、書道への興味につながりました。

また、地方自治体が実施主体となる「地域展開型」は、地域の子供たちが伝統文化等を体験する機会を増やすとともに、地域特有の文化や伝統文化を担う人材を掘り起こすことも目的としています。昨年度の京都市主催事業「暮らしの文化はくくみ事業」親子で体験！京の暮らしの文化はくくみは、華道や茶道、京の食文化や地蔵盆をはじめとする年中行事などが体験できるイベントで、京都市内に住む親子のべ約600名が参加、子供たちが伝統文化にふれる絶好の機会となりました。

地域ぐるみの 体験イベント 「地域展開型」



着物を着用して抹茶や投扇興など京の暮らしの文化を体験

次世代へ継承するために

このように伝統文化等の継承・発展や子供たちの豊かな人間性を育むことを目的とした取組のお手伝いをしています。

最近では、オンラインやVR等の先端技術を活用するなど、新しいスタイルで伝統文化を体験できるビジネスも増えてきているとか。これまでの実施工態に限らず、様々な媒体を利用して伝統文化を体験できる機会が増えることで、たくさんの子供たちの伝統文化等への興味につながることを期待しています。

文化庁ホームページ内
「伝統文化親子教室事業」
<https://www.bunka.go.jp>



文化庁地域文化創生本部

TEL:075-330-6720(代表)
<https://www.bunka.go.jp/>

新型コロナウイルスの影響を受ける
文化芸術関係者に対する
支援情報窓口のご案内



https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/sonota_oshirase/2020020601.html